

平成27年度 事業報告書

学校法人 花園学園

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

「禅のこころ」を育てる

花園学園は明治五年に臨済宗妙心寺の山内に宗門の子弟の教育機関として創設された、「禅のこころ」を建学の精神とする学園であります。創立以来歴史を積み重ねて、今年で143年を迎え、現在では社会の要望に応え広く門戸を開いて、学生数約2,000名の大学、約1,100名の中学・高等学校、約200名の幼稚園を擁する学園に成長して参りました。明治、大正、昭和、平成の四代にわたる日本は、まさに激動の時代でした。幾度の危機を乗り越え、今日を迎えることが出来たのは、その根本において、創立以来、建学の精神を一貫して堅持してきたことによるものであります。

本学園が目的とするのは、単なる知識の獲得のみではなく、あくまでも実践的な「坐禅」を通しての心のふれあいに基づく、一對一の直接的な人格教育であります。しかも、手取り足取り知識を教えるのではなく、自ら解決せしめて、自らに知らしめる創造的な教育であり、これが即ち、禅的訓育と宗教的情操の陶冶に他なりません。

花園大学は、開創当時、臨済宗教団の近代化を図ることを目的とし、その窓口として重要な意義を持っていました。しかし、近代を経て、グローバル化に突入した現在、大学は全く異質の使命を持つこととなりました。今、混迷せる社会に、自らの手で新しい価値を構築しようと、人々はもがいています。教育機関としての大学の使命として、そういう時代的要求に正しく対応するべく、努力を続けています。

花園中学・高等学校は、教育方針として、1. 「自主的な判断力を養う」 2. 「連帯意識を育む」 3. 「進取の気風を養う」を掲げています。教育上の実践として、生徒自身の目的意識を持った日々の学習の継続、より高い目標に挑戦する気概と自立心、さらに知徳体のバランスのとれた豊かな人間性を育み、各人の意見や自主性を尊重しつつ、自由に自分自身の目標に向かって、正しく判断し行動することを身につける教育を行っています。

洛西花園幼稚園は、仏教的環境の中で人間形成の基礎が培われ、情操豊かな園児を育てることを目標として、1. 「命を大切にし、感謝する心を育てる」 2. 「落ち着いた生活の中で自ら学び、考える力を育てる」 3. 「たくましく生きる力を育てる」を掲げています。

(2) 学校法人の沿革

明治5	般若林(三年制)を創立、明治31年に普通学林と称する
明治40	花園学院と改称して、中学部・高等部に分ける
昭和23	学制改革により臨済学院中学部を花園高等学校に改制
昭和24	花園大学設立 仏教学部仏教学科設置
昭和26	財団法人妙心寺派教学財団を学校法人妙心寺派教学団に組織変更
昭和27	花園高等学校 商業科を新設
昭和39	花園大学 仏教福祉学科設置
昭和41	学校法人妙心寺派教学団から学校法人花園学園に改称 花園大学 文学部設置
昭和43	花園高等学校 自動車科を新設(平成10年4月より自動車工学科)
昭和52	花園大学 総合移転
昭和53	花園高等学校 普通科に特別進学コースを新設
昭和55	花園大学 文学専攻科設置
昭和56	洛西花園幼稚園設置
昭和57	高等学校寄宿舎(雪江寮)閉寮
昭和61	花園大学 国際禅学研究所設置
昭和62	花園大学 中国蘇州大学と学術交流協定締結
平成4	花園大学 社会福祉学部設置 社会福祉学科
平成6	花園大学 大学院文学研究科設置
平成7	花園高等学校 商業科を募集停止
平成10	花園大学 大学院社会福祉学研究科設置 花園大学 韓国東國大学との学術交流協定締結 花園大学 台湾佛学研究所と学術交流協定締結
平成12	花園大学 介護福祉士養成施設指定〔厚生省〕 花園大学 歴史博物館設置 花園大学 大学院文学研究科博士(後期)課程設置 花園大学 社会福祉学部社会福祉学科福祉介護コース開設
平成14	花園大学 社会福祉学部福祉心理学科設置 花園大学 文学部仏教学科を国際禅学科に名称変更
平成15	花園高等学校 商業科を廃止 花園中学校設置
平成18	花園高等学校 自動車工学科を募集停止

平成19	花園大学	社会福祉学部福祉心理学科を臨床心理学科に名称変更
	花園大学	臨床心理士養成課程（第1種）指定
平成20	花園大学	文学部文化遺産学科設置
	花園大学	文学部創造表現学科設置
	花園大学	文学部史学科を日本史学科に名称変更
	花園大学	文学部国文学科を日本文学科に名称変更
平成21	花園大学	社会福祉学部児童福祉学科設置
平成22		生涯学習センターを開講
平成24		花園学園創立150周年記念事業準備室設置
平成25	花園大学	文学部国際禅学科を仏教学科に名称変更
	花園学園	創立150周年記念事業事務棟（又玄館）設置

(3) 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等
花園大学	昭和24年2月	文学部
		社会福祉学部
		文学研究科
		社会福祉学研究科
花園高等学校	昭和23年4月	全日制（普通科）
花園中学校	平成15年4月	
洛西花園幼稚園	昭和56年4月	

(4) 学校・学部・学科等の学生数の状況 (単位：人)

学校名		入学定員数	収容定員数	現員数
花園大学	文学部	285	1,140	863
	社会福祉学部	240	960	1,062
	文学研究科	17	36	27
	社会福祉学研究科	10	20	13
花園高等学校		320	960	980
花園中学校		80	240	105
洛西花園幼稚園		100	280	196
合計		1,052	3,636	3,246

(平成27年5月1日現在)

(5) 役員の概要

理 事 長	栗原 正雄
常 務 理 事	山本 文匡・堀尾 和良・後藤 慶裕・福田 篤・松井 宗益・宮川 庸男
理 事	丹治 光浩・清水 良正・小山内 定代・土方 弘道・本間 愛教
監 事	三澤 信吾・水谷 滋

(平成27年5月1日現在)

(6) 教職員の概要

(単位：人)

区分		法人本部	花園大学	花園高等学校	花園中学校	洛西花園幼稚園	計
教員	本務	0	81	65	13	24	183
	兼務	0	259	26	1	0	286
職員	本務	5	52	18	1	1	77
	兼務	0	0	4	0	0	4

(平成27年5月1日現在)

2. 事業の概要

(1) 事業の概要

<法人本部>

- ・ 各設置校の活性化を行い、到達点として「建学の精神の具現化」を目標とする。
- ・ 花園学園改革推進委員会答申書による学園改革の実施。
- ・ 花園学園創創立150周年記念事業委員会の継続推進。

<大学部>

学則第一条に謳う「高等の知識を授け、専門の学術を教授研究し、仏教精神によって人格を陶冶し、人類文化に貢献する人物の養成を目的とする」という建学の精神を具現化する事業目標を高等教育の場において遂行するため、厳しい環境変化、社会変化を視野に入れながら、現行の施設・設備、組織、制度、運用等を総合的に点検検証し、経営基盤の確立、強化を目標とする。

<中学・高校部>

1. 生徒に独習する力を身につけさせるため質の高い教育を提供する。教育機関として、高い評価と信頼を得るため教職員の資質向上に努める。
2. 禅の精神を教育の柱と定めて教育全般を構築し、学習効果を高め、生徒の自己確立を促す。
3. 財政の安定を図りながら、150周年記念事業の一つとしている1号館建替計画を進める。

<幼稚園部>

禅を基本とした宗教情操教育を基本理念として、基本的な生活習慣の形成・子育て支援の充実・魅力ある保育者の養成・安心安全の幼稚園づくりを事業目標とする。

(2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

<法人本部>

1. 花園学園成長戦略会議の立ち上げ

花園大学規模適正化として、文学部2学科の募集停止を理事会へ上程、可決承認。また、花園中学高等学校に禅を基本としたグローバルに活躍する人材育成を目指すスーパーグローバルZENコースを平成28年4月開設を決定した。

2. 花園学園創立150周年記念事業計画の進展

学園創立150周年記念事業の一環として学園総合案内の一新および英語版の作成を行った。また、特別奨学金制度を創設し、27年度は中学生1名へ付与した。構築物においては、老朽化建物の精査を行った。

3. 組織の充実と拡充

花園大学に新しく総長制を敷き、河野太通元学長にご就任いただいた。大学の管理体制の一元化とより一層の充実を図るとともに、禅の発信をより強める体制を整えた。

4. 地域社会との共存

生涯学習センターとして、妙心寺派より布教師を招き、新たに大学で4回、幼稚園で4回の計8回講座を実施した。

<大学部>

1. 建学の精神の具現化のために禅仏教教育センターの事業推進と学内諸機関並びに学外諸機関との連携を強化し活性化を図る

平成27年度も学長講座として年間30回の授業を行い、公開講義を実施し多くの聴衆を集め、行事としては早朝坐禅の実施を講義期間中毎朝実施した他、新入生、新入教職員の本山参拝、創立記念日の本山参拝、大学摂心(坐禅会)などを実施した。また、禅仏教教育センターと他機関の連携強化の為に組織統合や協働を検討している。

2. 学園創立150周年を見据えた大学の中長期計画の構築。2017年度より定員の適正化を検討・実施に向け取り組む

大学改革・IR推進室を設置し、中長期計画の策定に取り組んだ。定員適正化のため、文化遺産学科と創造表現学科の募集停止を行い、PRに努めた。

3. 財務状況改善のため、人件費をはじめ、各種制度を見直し、併せて既存学科の存続の可否並びに再生策の検討

財務状況改善のため、人件費の見直しや諸経費において工事内容の見直し等を行い、経費を必要最小限にとどめた。その結果、予算の事業活動収支差額で約3.7億円の支出超過であったが、決算では8千万円強の超過で、大幅な赤字改善につながった。

4. 学修並びに学生生活の支援体制の充実とそのための研修並びに制度構築

学生の出席管理システムを導入し、学生支援並びに保護者等への対応に取り組んだほか、障がい有する学生の支援のため入学前個別面談を行い、入学後の支援体制構築に取り組んだ。また、学生支援室を拡充整備、図書館もグループ学習室を設置するなど既存施設の充実に努めた。

5. 進路支援策の拡充と就職支援体制の充実、そのための研修並びに制度構築

「一人ひとりに寄り添う就活サポート」を理念にキャリアカウンセリングの機会を前年度から倍増、また、面接支援プロジェクトを実施するなど、支援の充実に図った。

6. 文部科学省エコキャンパス補助事業による教室、自適館の空調設備の更新

エコキャンパス事業の追加募集採択を得て、太陽光発電設備設置や高エネルギー効率の空調設備へ更新した。

7. 校舎の経年劣化による老朽化した施設整備

一部校舎の外壁タイルに浮きを確認した為、補修工事を行ったほか、別校舎では屋根板の浮きによる雨漏れの可能性があり補修工事を行った。

8. 認証評価による指摘事項並びに参考意見を重視し、法令順守と教育体制改編、その目的達成と評価

認証評価の指摘事項並びに参考意見に対し、規程や制度の見直しを行った。また、昇任人事にポイント制を導入し、教員だけでなく職員の評価制度を進める一歩となった。

< 中学・高校部 >

1. 教育事業については、「禅」を教育の柱とし、個々の自主性の尊重・進路の実現を重点課題として取り組んだ。生徒の考えの多様化が顕著になる中で、きめ細かな教育を実施した。また、茶道、華道を含めた日本古来の伝統文化を学び、海外留学も含め国際交流のさらなる推進を図り、禅を基本としたグローバル化を進めていく。中高一貫のスーパーグローバルZENコースと探求型教育を実践するディスカバリーコースの募集をおこなった。

2. 学校運営については、社会から選ばれる学校運営をめざし、教職員の質向上のため各種研修を行った。今年も公開授業をさらに充実させて実施した。禅に基づいたグローバル化に向けて、担当教職員を海外の教育施設に派遣し研修させた。各中学校、塾に対して、特に中学校入試に対しては、校長も塾を訪問し、きめ細かく募集活動を実施した。

3. 教育環境整備については、創立150周年を見据えて、中長期の校舎改修計画を構築した。その中で、1号館については、妙心寺派様から校舎をご寄附いただいた。災害時の帰宅困難生徒に対応する災害用備蓄品を昨年度に引き続き整備した。校舎、設備の整備として、2号館照明設備の改修、4号館エアコン入れ替え、体育館屋根防水工事、平成28年度からタブレットを使用して授業を行う準備として、無線LANの工事をおこなった。

< 幼稚園部 >

1. 保育室前廊下、階段の補修整備について、今まで滑りやすく、危険な部分もあったが、補修後は滑り止めもついたため、怪我がなくなり廊下階段が明るくなった。

2. 砂場の増築、遊具の充実化で、のびのびとたくさんの子供たちが砂場遊びを楽しんでいる。1歳児、2歳児の増加の為ボールを購入したので、ボール遊びを楽しめるようになった。

3. 財務の概要

(1) 経年比較

① 貸借対照表

(単位：千円)

	26年度末	27年度末
固定資産	25,110,012	28,456,814
流動資産	6,855,147	3,418,197
資産の部合計	31,965,159	31,875,012
固定負債	1,083,581	1,040,477
流動負債	611,339	520,050
負債の部合計	1,694,921	1,560,528
純資産の部合計	30,270,238	30,314,484
負債の部及び純資産の部合計	31,965,159	31,875,012

(千円未満は切り捨て)

② 収支計算書

ア) 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	26年度末	27年度末
学生生徒等納付金収入	2,922,504	2,855,751
手数料収入	78,813	65,047
寄付金収入	45,821	57,329
補助金収入	852,069	900,040
受取利息・配当金収入	97,689	92,836
資産売却収入	4,452,981	1,131,250
付随事業・収益事業収入	5,188	5,374
雑収入	99,653	156,269
借入金等収入	0	0
前受金収入	439,407	375,769
その他の収入	3,495,408	1,430,370
資金収入調整勘定	△ 635,427	△ 653,090
前年度繰越支払資金	5,559,758	6,669,989
収入の部合計	17,413,869	13,086,936

支出の部	26年度末	27年度末
人件費支出	2,310,954	2,364,716
教育研究経費支出	1,021,930	1,019,521
管理経費支出	328,976	287,444
借入金等利息支出	4,930	3,574
借入金等返済支出	94,768	65,888
施設関係支出	432,197	174,475
設備関係支出	75,162	80,677
資産運用支出	6,388,898	5,805,492
その他の支出	126,442	108,624
資金支出調整勘定	△ 40,381	△ 25,213
次年度繰越支払資金	6,669,989	3,201,734
支出の部合計	17,413,869	13,086,936

(千円未満は切り捨て)

イ) 事業活動収支計算書

(単位：千円)

		科 目	26年度末	27年度末
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,922,504	2,855,751
		手数料	78,813	65,047
		寄付金	47,678	43,377
		経常費等補助金	850,469	845,131
		付随事業収入	5,188	5,374
		雑収入	78,658	130,827
		教育活動収入計	3,983,313	3,945,509
		事業活動支出の部	科 目	26年度末
	人件費	2,330,380	2,337,988	
	教育研究経費	1,387,443	1,406,533	
	管理経費	374,345	333,060	
	徴収不能額等	0	464	
	教育活動支出計	4,092,169	4,078,046	
教育活動収支差額			△ 108,856	△ 132,536
教育活動外収支の部	事業活動収入の部	科 目	26年度末	27年度末
		受取利息・配当金	97,689	92,836
		その他の教育活動外収入	0	0
		教育活動外収入計	97,689	92,836
	事業活動支出の部	科 目	26年度末	27年度末
		借入金等利息	4,930	3,574
		その他の教育活動外支出	0	0
		教育活動外支出計	4,930	3,574
教育活動外収支差額			92,758	89,261
経常費収支差額			△ 16,097	△ 43,275
特別収支の部	事業活動収入の部	科 目	26年度末	27年度末
		資産売却差額	249,961	38,545
		その他の特別収入	1,600	143,437
		特別収入計	251,561	181,983
	事業活動支出の部	科 目	26年度末	27年度末
		資産処分差額	34,009	92,305
		その他の特別支出	0	2,158
		特別支出計	34,009	94,463
特別収支差額			217,551	87,520
基本金組入前当年度収支差額			201,454	44,245
基本金組入額合計			△ 349,512	△ 214,116
当年度収支差額			△ 148,057	△ 169,871
前年度繰越収支差額			1,938,549	1,790,491
翌年度繰越収支差額			1,790,491	1,620,620

科 目	26年度末	27年度末
事業活動収入計	4,332,564	4,220,329
事業活動支出計	4,131,110	4,176,084

(千円未満は切り捨て)

(2) 主な財務比率比較

(単位：%)

比率名	算式	26年度	27年度
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	4.6	1.0
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	88.2	94.2
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{経常収入}}$	71.6	70.7
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	57.1	57.9
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	34.0	34.8
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	9.2	8.2
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	1121.3	657.3
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	5.6	5.1
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{純資産}+\text{総負債}}$	94.7	95.1